

さきがける 科学人

vol.57

並木 秀俊

Namiki Hidetoshi

COI文化共有研究グループ 特任研究員



プロフィール 千葉県佐倉市出身。2003年に東京藝術大学美術学部絵画科日本画専攻を卒業し、08年に同大学院美術研究科文化財保存学専攻で博士(文化財)を取得。院展などで受賞を重ね、国内外で展覧会を開き、截金作家として高く評価されている。アフガニスタンのパーミヤン壁画など、文化財の復元や複製にも技術を生かす。

きりかね 幻の「截金」継承者、文化財複製にも尽力

きりかね 仏画技法の截金で、日本画を彩る

作家は常に新しい表現技法を求められます。そんな中、東京藝術大学大学院で出会ったのが、截金でした。

「阿弥陀三尊来迎図」という浄土信仰の古代仏画を模写実習中に眺めるうち、金泥で塗られた衣に針のように細長い金箔がびっしりと並び、緻密な繰り返し紋様が描かれているのを発見しました。それが截金だったのです。飛鳥時代に仏教伝来とともに開花し、人間国宝級の技術者によって引き継がれてきた幻の技法です。

「同技法同素材」が模写の基本にもかかわらず、誰も截金には挑まず金泥を塗って終了。再現してみたいと情報を集め始めた矢先、先輩から「おまえには無理だ」といなされました。

悔しくて、講義で来ていた人間国宝の截金師・江里佐代子さんから数ヵ月かけて学びました。専用の竹刀で、細いものだと0.01ミリの幅で金箔をひたすら切り続けること5時間、500本近くをためたと、吹き飛ばさないよう息を詰め、仏画の衣に隙間なく敷き詰めていきます。

想像を超える集中力と長時間の作業です。肩はこぼり目の焦点も合わなくなるほどでした。それでも、仕上がりの何とも言えない美しさの虜になりました。「これを、専門の日本画に融合させれば、類を見ない作品になるはず」と確信したのです。

今では、あちこちから制作依頼が舞い込みます。截金作家は日本でわずか10人ほど。この特

異な持ち味を生かし、これからも新境地を切り拓いていくつもりです。

追求し出すと止まらない

リアルな表現を求める日本画や、地道な作業が必要な截金に傾倒したのは、物事を追求し出すと止まらない独特の性格のためかもしれません。藝大受験前に通った予備校では、寝ても覚めても石膏デッサン一色。早朝に家を出て、開門と同時に気に入った場所に陣取り、石膏と向き合いデッサンを開始。半日ひたすら描き続け、帰宅後は参考資料を片手に反省を繰り返しました。

この性格を生かし、藝大COI拠点では「藝大にしかできない」古典画や仏像の複製に取り組んでいます。日本画、油画、彫刻、工芸などさまざまな専攻から作家を選び、芸術家の審美眼だからこそ気づく微妙な凹凸や素材感の再現に挑戦しています。

昨年、チームで複製したパーミヤン東大仏の天井壁画「天翔る太陽神」は、G7(先進7カ国)伊勢志摩サミットで各国首相に絶賛され、苦労が報われてほっとしました。

シルクロードを経て日本、そして創作へ

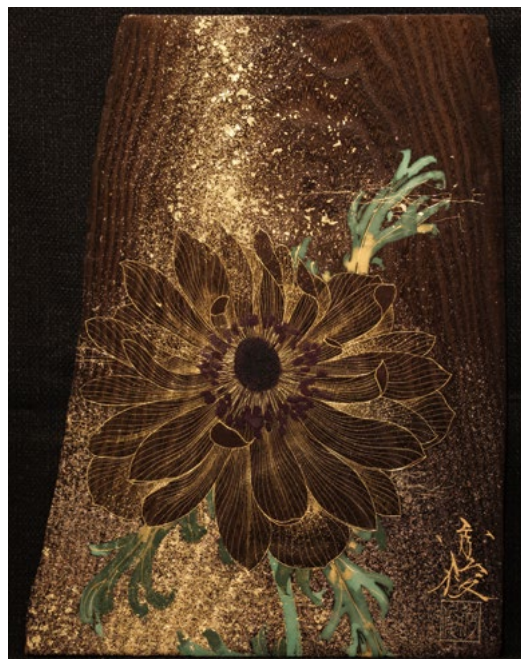
日本独自と思われていた截金が、遠く離れた黒海近辺から出土した紀元前のガ

ラス容器に施されていたという報告に驚き、作品を調査始めました。

海外では、金箔装飾の技法がほとんど研究されていません。截金による装飾と判断できる人がいないため、どこかに作品が眠っているかもしれないのです。黒海から中東、シルクロードを経て仏教と結びつき日本に入ったのではと睨み、経路上のアジア圏の教え子たちに情報提供を呼びかけています。

古代の海外の工人が生み出した作品には日本にはない作風があります。博学になると、その知識が私自身の作品制作に影響を与え、個性となります。現代の情報からも刺激を受けます。例えば、最先端の科学技術を手にする研究者と芸術家の異なる視点を持ち寄れば、きっと新たな創造物が生まれるはずですよ。

(JST広報課・松山桃世)



作品「アネモネ」(縦30センチ横22センチ)。緻密な截金が日本画の奥深さを引き立てる。

センター・オブ・イノベーション(COI)プログラム

東京藝術大学「感動」を創造する芸術と科学技術による共感覚イノベーション拠点

美術・音楽・映像・身体表現という五感を使った芸術表現を培う藝大を中心に、教育産業や情報産業の企業群が活動する産学連携拠点。芸術と科学技術を融合し、高精度な文化財の複製やアンドロイド演劇、感動と脳機能の関連性の探索など、文化・心・絆を育むイノベーションを生み、感動の力で日本の文化立国と国際的な共生社会の実現をめざします。(JSTnews 2016年7月号参照)

リサイクル適性(A)
この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。

280
古紙/ハルブ配合率80%再生紙を使用

JSTnews

January 2017

発行日/平成29年1月4日
編集発行/国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)総務部広報課
〒102-8666 東京都千代田区四番町5-3 サイエンスプラザ
電話/03-5214-8404 FAX/03-5214-8432
E-mail/jstnews@jst.go.jp ホームページ/http://www.jst.go.jp
JSTnews/http://www.jst.go.jp/pr/jst-news/



最新号・バックナンバー